



Title	小さなくりの木の下で
Author(s)	西野, 玲子
Citation	未来共生学. 2018, 5, p. 301-301
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/68221">https://doi.org/10.18910/68221</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 小さなくりの木の下で

豊中市桜塚校区福祉会 小さなくりの木会 責任者 **西野玲子**

私たちの「小さなくりの木会」は5年、100回、10年、365回、20年、500回と節目を楽しみながら、積み重ねながら、気がつけば四半世紀近く経ちました。こんなに長く続くとは思いませんでした。それは、桜塚校区福祉会のバックアップがあり、北桜塚会館が定期的に借りられたこと、そして何より頼りになるスタッフやご本人やご家族が会の運営をささえてくれ、そして大きな事故もなかったことです。

目的も変わらず、本人支援、家族支援、そしてスタッフも楽しく過ごせる場所づくり、オレンジカフェでもあり世代間交流や色々な障害を持つ人たちが当たり前で過ごされる場所です。

ここにすれば誰もがやさしくなります。笑顔になります。笑い声やおしゃべりが続き、歌声が聞こえてきます。誰が利用者かスタッフかわからない、わからなくてもよい空間。今日1日、みんな幸せでいられる場所。

4人の阪大大学院の学生さんが来られたときもすぐに違和感なく溶け込んでおられました。認知症の人や障がいのある人から色々と引き出し、お話やゲームを楽しませてくれました。また、10周年記念誌発行以来できていなかった「私たちの活動や思い」をまとめていただき、500回記念誌を発行していただいたこと、深く感謝しています。

私がこの会の存続に危機感を感じ出したのは数年前からです。スタッフも高齢化し荷物の出し入れや送迎の問題など上げればキリがない。若いスタッフも呼びかけても入ってこない。

スタッフのみなさんに「もう閉めようか」と何度か尋ねました。「まだや〜」「やれるところまでやろう」「わたしたちの居場所がなくなる」と。いまでもこれを書きながらどこまでやっていけるか考えています。

2017年11月13日のゲストは、半年に1度訪問の「豊中シニアアンサンブル」でした。次回の訪問日はいつにしますかと尋ねられ、悩みましたが、次の5月のお約束をいたしました。

みんな～、一緒にがんばろうね。